目 指 す 学 校 像 | 自ら学び 心豊かで たくましい児童の育成 ~ 変化する社会を、笑顔で生きていくために ~

 1 【学力向上】
 I C T や地域の教育力の効果的な活用、問題解決的な学習の充実

 2 【安心安全】
 環境の整備、緊急時対応の徹底、食に関する指導の充実

 重 点 目 標 3 【開かれた学校】
 積極的な情報公開

 4 【教員の資質向上】
 今日的課題に関する研修の実施

 5 【心の教育】
 人権意識の育成、教育相談体制の充実、積極的な生徒指導の推進

達	Α	ほぼ達成	(8割以上)
成	В	概ね達成	(6割以上).
度	U	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

			学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価		
		年	度	B	標		年 度	評	価	実施日 令和5年3月6日	
番号	現状と課題	評価項目	具作	体的方策		方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	「学力向上」	用	<ul> <li>ICT機器を活用</li> <li>自身の学習状況</li> <li>スタディサプリーの反復習熟に取り</li> <li>自分の考えをポスキルを指導する</li> <li>地域を生かす教育・公共施設の見名</li> <li>る授業を計画的</li> </ul>	況に合わせドリ を活用し、基本 り組ませる。 相手に伝えるた 。	リルパーク、 は的な計算等 こめの基本的	① ICT機器を活用して、習熟に応じた個別の学習を全学級週1時間以上実施できたか。 ① ICT機器を使って意見交換をする授業を2年生以上の学級で単元に1時間実施できたか。 ② 地域の方を招いた授業、地域を訪ねる授業を年間5回実施したか。(生活科、社会科、クラブ活動)	訪ねる授業が数多く行われた。 (生活、図工、体育、学級活動、	A	<ul> <li>プロジェクター、タブレットの効果的な活用を研究する。</li> <li>・投影が明瞭になる白いスクリーンを計画的に購入する。</li> <li>○地域とかかわりのある授業をさらに増やす。</li> <li>・保護者の方がかかわる機会を設ける。感染症の状況を見て判断する。</li> </ul>	<ul> <li>子どもたちにタブレットを楽しく使う姿(写真、動画)を見ることができた。教師は、ICTについて学ばなければならず大変だと思うが、頑張ってほしい。</li> <li>ノートに書く活動も大切に</li> </ul>	
	グ、ICTの活用)、まとめ といった学習過程が定着して いる。 ○ 多くの児童が、学習規律を 身に付いている。		<ul><li>① 「問題解決的な学・問題解決的な「問題解決的な「問題設定」に「</li><li>② 集団学習の深化・個別に解決しが動に関する時間</li></ul>	学習の重要なついて工夫をす た結果を集団で	<sup>-</sup> る。	元の7割で行われているか。 ② 「集団でまとめ活動」の時間を設定	○ 国語、算数、社会、理科では、 学習問題を設定する授業が行われた。 ○ 上の教科では、1単位時間の終わりに「まとめ」が行われている。	A	<ul><li>○ 指導内容の準備を充実させ、 質の高い授業を展開する。</li><li>・ 5,6年生において教科担任 制を導入する。</li><li>・ 自力解決を充実させるとと もに、話合い活動も継続して 取り入れる。</li></ul>	してほしい。 ・ 地域の教育力をさらに発掘していく。 ・ 問題解決的な学習は継続して取り組んでいただきたい。	
	「安心安全」  ○ 保護者や地域の方々の見守りによって、安全に登下校することができている。  ○ 自助の姿勢が身に付いてい	安全、生活	<ul><li>① 自分の身が守れる</li><li>・ 体育、委員会</li><li>助」について全</li><li>② 安全安心な生活環</li><li>・ 整理整頓された</li></ul>	、下校指導、 学級で継続指導 環境の整備	<b>拿をする。</b>	① 「自助」の意味が分かる児童が、全児童の7割以上いるか。 ② 教室内におけるけがの件数が昨年度を下回っているか。	中心に指導を行った。	В	<ul><li>自分の命、体に関する指導を 繰り返す。</li><li>988 人が接触しないよう、引 き続き校庭の使用制限を行う。</li></ul>	<ul><li>・ 安心安全は何よりも一番大事なことである。</li><li>・ 具体的な事故事例をもとに安全指導を行うのがよい。</li><li>・ けがが起きない環境づくり</li></ul>	
2	るが、繰り返し指導していく 必要がある。      教職員は、危機管理に関する情報共有や研修会を行っている。(傷病、事故)	徹底	<ul><li>○ 緊急時対応の継続</li><li>・ 学校行事では、 時対応のシミュレ</li></ul>	ASUKA モデル		<ul><li>○ 運動にかかわる学校行事について、 緊急時対応のシミュレーションをすべ てで行っているか。</li></ul>	<ul><li>○ 緊急対応の事案については、対 応後に、ASUKA モデル等をもとに振 り返りを行う。</li></ul>	A	○ 今年度と同様に取り組んでい く。	に努めていただきたい。     けがの裏に何か問題が隠れているかもしれないという目をもち続けてほしい	
		健康教育の 充実	○学校食育の推進 ・ 食への関心を調 材として日々指導		<b>牟校給食を教</b>	○ 給食の時間を楽しみにしている児童 が全体の7割以上いるか。	○ 9割を超える児童が給食を楽し みにしている。	A	○ 各教科の中で行う、学校食育 を研究する。	<ul><li>給食が安全でおいしいこと がうれしい。継続して努めて ほしい。</li></ul>	
3	「開かれた学校」 ○ 情報は発信しているが、適 切な時に、適切な量であると はいえない。		<ul><li>文書、メールによ</li><li>学校生活に関ってお知らせする。</li><li>② ホームページの定</li></ul>	する情報を、文		<ul><li>① 昨年度を上回る文書、メールを発出しているか。</li><li>② 2週に1度で更新しているか。</li></ul>	○ 発出文書は端的でわかりやすい ものにした。メールを使った情報 発信は昨年度以上に行った。	В	<ul><li>○ さらにわかりやすく、効果的なホームページを作成する。</li></ul>	<ul><li>安心に関するメールを受けて家庭で指導をしている。</li><li>できるだけタイムリーで双方向のやり取りがしたい。</li></ul>	
4	「教員の資質向上」 ○ 継続的に研修をしてきた。 引き続き研修が必要である。 ○ 教科等以外の研修が必要である。	教職員研修の充実	<ul><li>算数科を中心とす</li><li>講師を招いて、実施する。</li><li>児童理解に関する</li><li>「自己有用感」する研修を実施</li></ul>	研究授業と研 研修会の実施 や、本校児童	T究協議会を	① 算数科研修会(研究授業、研究協議会)を年間3回実施しているか。 ② 児童理解に関する研修会を年間5回実施しているか。	年間4回実施する。	A	○ 今年度と同様に取り組んでい く。	<ul> <li>研修について継続して取り 組んでいただきたい。引き続き教育のプロとして頑張って いただきたい。</li> <li>子どもや保護者に寄り添える教師が求められている。</li> </ul>	
	「心の教育」 ○ いじめについて、未然防止、早期発見、早期対応が必要である。 ○ 特別支援教育について、教職員の研修が必要である。	識を持ち合 わせた人間 の育成	<ul><li>いじめや差別に関・事案についてる。</li><li>等別支援教育の充・教員が、ひままの状況について</li></ul>	迅速かつ組織 ご実 わり学級の参観	的に対応す	行われているかどうか。 ② 特別支援学級を授業参観する教員が 8割いるか。	<ul><li>○ 「いじめ」だけでなく、生徒指導にかかわる案件には、迅速に対応した。</li><li>○ ひまわり学級で授業公開を行う。8割には至らなかった。</li></ul>	В	<ul><li>○ 生徒指導にかかわる案件については、今年度同様に取り組んでいく。</li><li>○ 特別支援に関する研修会を開催する。</li></ul>	<ul><li>生徒指導にかかわる案件について引き続き迅速な対応をお願いしたい。</li><li>特別支援教育は教育の原点であるので、その理解を深め</li></ul>	
5	<ul><li>○ 新型コロナの影響で、学校 と保護者が接する機会が少なくなった。</li><li>○ 一教員ではなく、組織で対応が求められている。</li><li>○ 進んであいさつができるの</li></ul>		<ul><li>児童や保護者と 子や困り事について、改善の提案を</li><li>② カンファレンス会</li></ul>	ヽて共有する。。 :行う。 ☆議の開催、情:	必要に応じ 報の共有	<ul><li>① 全ての児童や保護者との面談が行われているか。</li><li>① 配慮を要する兆候が見られた時に面談が行われているか。</li><li>② 組織的に対応すべき事案について教職員が認知しているか。</li></ul>	○カンファレンス会議を迅速に開催	A	<ul><li>○ 今年度と同様に取り組んでいく。</li><li>○ 教育相談に関する研修を重ねていく。</li></ul>	ていただきたい。 ・ 教師と保護者、保護者と保護者において、互いの顔がわかる、顔見知りの関係になりたい。 ・ 懇談会でのディスカッションや情報交換は効果的であろ	
	は、全児童ではない。	積極的な生 徒指導の推 進	<ul><li>○ あいさつ、返事、</li><li>・ 「おはようごさの向きについて継</li></ul>	がいます」、「	はい」、体	○ あいさつができていると認識している児童が7割いるか。	○ 多くの児童が、挨拶をしている と認識している。	A	○ 家庭や地域との連携が必要で ある。	う。	